

■ 資料

## 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2021)

田 中 秀 男

(関西大学)

並 木 崇 浩

(愛知淑徳大学学生相談室)

青 木 剛

(南山大学人文学部心理人間学科)

坂 中 正 義

(南山大学人文学部心理人間学科)

### 要約

本論文は、2021年に発表された、わが国におけるパーソンセンタード・アプローチ関連の文献リストである。文献は、非指示的カウンセリング、来談者中心療法、パーソンセンタード・カウンセリング、パーソンセンタード・セラピー、パーソンセンタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、積極的傾聴法等に関するものである。収録は「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」「ベーシック・エンカウンター・グループ」「その他」ごとに、A.書籍、B.研究論文、C.学会発表、D.翻訳、E.海外文献紹介、F.書評のジャンルに分けて行っている。

キーワード：来談者中心療法、パーソンセンタード・カウンセリング、パーソンセンタード・セラピー、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、ベーシック・エンカウンター・グループ、パーソンセンタード・アプローチ、文献リスト

### はじめに

本論文共著者の一人、坂中は、わが国におけるパーソンセンタード・アプローチの研究および実践を振り返り、今後の発展のための課題探索の1つの手がかりを提供するため、次のような文献リストを作成した。

1. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に

- 関する文献リスト —ロジャース選書及び全集— 九州大学心理臨床研究, 17, 113-121.
2. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（～1969） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 2, 9-31.
  3. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1970～1974） 福岡教育大学「教育実践研究」, 6, 81-88.
  4. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1975～1979） 福岡教育大学「教育実践研究」, 6, 89-98.
  5. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1980～1984） 福岡教育大学紀要（教職科編）48, 195-214.
  6. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1985～1989） 福岡教育大学「教育実践研究」, 7, 115-132.
  7. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1990～1994） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 3, 13-51.
  8. 坂中正義 2000 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1995～1999） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 4, 13-55.
  9. 坂中正義 2001 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2000） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 5, 23-56.
  10. 坂中正義 2002 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2001）—第Ⅰ部：来談者中心療法— 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 6, 51-68.
  11. 坂中正義 2002 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2001）—第Ⅱ部：ベーシック・エンカウンター・グループ、第Ⅲ部：体験過程療法・フォーカシング、第Ⅳ部：その他— 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 6, 69-85.
  12. 坂中正義 2003 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2002） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 7, 1-22.
  13. 坂中正義 2004 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2003） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 8, 31-50.
  14. 坂中正義 2005 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2004） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 9, 17-36.
  15. 坂中正義 2006 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2005） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 10, 1-24.
  16. 坂中正義 2007 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2006） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 11, 1-20.
  17. 坂中正義 2008 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2007） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 12, 1-24.
  18. 坂中正義 2009 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に

- 関する文献リスト (2008) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 13, 9-29.
19. 坂中正義 2010 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2009) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 14, 27-50.
  20. 坂中正義 2011 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2010) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 15, 29-50.
  21. 坂中正義 2012 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2011) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 16, 1-20.
  22. 坂中正義 2013 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2012) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 17, 1-23.
  23. 坂中正義 2014 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2013) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 13, 231-255.
  24. 坂中正義 2015 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2014) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 14, 231-255.
  25. 坂中正義 2016 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2015) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 15, 105-134.
  26. 坂中正義 2017 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2016) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 16, 111-139.
  27. 坂中正義 2018 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2017) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 17, 97-130.
  28. 坂中正義 2019 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2018) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 18, 115-137.
  29. 坂中正義 2020 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2019) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 19, 123-149.
  30. 坂中正義 2021 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2020) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 20, 181-206.

本論文では、これらの論文の続編として、2021年の日本におけるパーソンセンタード・アプローチ関連の文献リストを作成する。また、これまでのリストに漏れていたものを追録する。

なお、本論文から執筆者が追加された。これまでの論文の筆者であった坂中

が2021年に逝去したことにより、その生前の遺志を継いだ田中・並木・青木の3名が本論文を補筆・完成させた次第である。

## 方法

2021年に発行されたパーソンセンタード・アプローチ関連の以下のようなキーワードが論じられている文献が収集された。

非指示的カウンセリング、来談者中心療法、パーソンセンタード・カウンセリング、パーソンセンタード・セラピー、パーソン・センタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、積極的傾聴法、人間中心の教育等。

分類方法は、文献を「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」「ベーシック・エンカウンター・グループ」「その他」の4部に分類し、それぞれ、A.書籍、B.研究論文<sup>1</sup>、C.学会発表、D.翻訳、E.海外文献紹介、F.書評に分けて収録した。さらに、各部ごとに2021年の動向や代表的な文献を紹介した。

文献は、できるだけ手広く収集を努めたが、不備も予想される。それらについては、指摘をまって、今後の文献リストシリーズの中で、訂正、追加、補足したい。

## 第I部：来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング

「第I部：来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」には関連文献のうち、来談者中心療法、来談者中心遊戯療法、パーソンセンタード・セラピーといった個人カウンセリングや「自己一致」「共感的理解」「無条件の積極的関心」「アクティブリスニング」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した。

2021年の概要は次のとおりである。「A.書籍」はなかった。「B.研究論文」は12本であった。「C.学会発表」は9本で、そのうち2つがシンポジウムであった。「D.翻訳」は1本であった。「E.海外文献紹介」はなかった。「F.書評」はなかった。

2021年における「来談者中心療法」の特徴は、日本PCAの源流をたどる文献（B-4、B-6、B-8）が刊行された一方で、他学派との共存に言及した研究（B-2、C-4）やポスト・ロジャーズの研究者に関する研究（B-7、B-9、B-10、B-12）の本数が増えたことであろう。

---

<sup>1</sup> 研究論文には便宜上、ニュースレター等も含めている。

## A.書籍

[該当文献なし]

## B.研究論文

1. 安部恒久 2021 自己の居場所を求めて 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 20, 59-66.
2. 伊藤研一 2021 PCAと他学派との狭間を生きる 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 20, 77-83.
3. 上條晴夫 2021 遠隔合同授業の試み: 学習環境のイノベーションのために 教職研究, 2020, 59-74.
4. 村山正治・畠瀬直子・飯長喜一郎 2021 南山大学人間関係研究センター公開講演会 PCAの道: 源流をたどる 村山正治氏×畠瀬直子氏×飯長喜一郎氏 公開対談 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 20, 1-37.
5. 永野 浩二・河崎 俊博・益田 啓裕・荒木 浩子・宮川 裕基 2021 心理臨床家としてのPersonal Development: PCAのセラピストに必要なトレーニングについて考える 追手門学院大学心の相談室紀要, (18), 9-22.
6. 中村和彦 2021 巻頭言: パーソンセンタード・アプローチとの出会い 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 20, 1.
7. 並木崇浩・白崎愛里・山根倫也・小野真由子 2021 人が「ひと」として本物であること —Schmid の論文から学ぶ I— 関西大学心理臨床センター紀要, (12), 71-80.
8. 野島一彦 2021 私のPCA 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 20, 53-57.
9. 小野真由子・斧原藍・並木崇浩・山根倫也・白崎愛里 2021 「出会い」の哲学から再考するパーソン・センタード・アプローチの共感的理解—Schmid の論文から学ぶ II— 関西大学心理臨床センター紀要, (12), 81-91.
10. 白崎愛里・並木崇浩・山根倫也・小野真由子 2021 対話・他者との「出会い」の哲学から考える無条件の肯定的関心 — Schmid の論文から学ぶ III— 関西大学心理臨床センター紀要, (12), 93-103.
11. 田畑 治 2021 私の歩み (This is Me) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 20, 39-52.
12. 山根倫也・並木崇浩・白崎愛里・小野真由子 2021 パーソン・センタード・アプローチにおける「出会いの関係」から考えるプレゼンス—Schmid の論文から学ぶ IV— 関西大学心理臨床センター紀要, (12), 105-115.

## C.学会発表

1. 中鉢路子・三國牧子 2021 精神病理の重いクライアントと場を共にする体験とその難しさについて 日本人間性心理学会第40回大会プログラム・発表

- 論文集, 44.
2. 飯長喜一郎・下田節夫・中田行重・香川克 2021 自主シンポジウム：PCAの未来を語る 日本心理臨床学会第40回大会プログラム, 58.
  3. 軽野誠輝 2021 理想自己と現実自己の差異が自己嫌悪感情に及ぼす影響 日本人間性心理学会第40回大会プログラム・発表論文集, 37.
  4. 三國牧子 2021 自主シンポジウム：PCAは本当に絶滅危惧種なのか？ 日本人間性心理学会第40回大会プログラム・発表論文集, 32.
  5. 諸富祥彦 2021 実行委員会企画：先輩に訊く パーソンセンタードの発展 日本心理臨床学会第40回大会プログラム, 12.
  6. 永野浩二 2021 大会主催ワークショップ：心理臨床家のPersonal Development 日本人間性心理学会第40回大会プログラム・発表論文集, 25.
  7. 中田行重 2021 大会主催ワークショップ：パーソン・センタード・セラピーの実務 日本人間性心理学会第40回大会プログラム・発表論文集, 24.
  8. 鶴田一郎 2021 ロジャーズの「ユニオン神学校」と、その後の「カウンセラーへの転身」について 日本人間性心理学会第40回大会プログラム・発表論文集, 39.
  9. 吉田美波 2021 大学院授業における「積極的傾聴」の実習体験と報告と考察 日本人間性心理学会第40回大会プログラム・発表論文集, 49.

#### D.翻訳

1. Mearns, D. & Cooper, M. (中田行重・斧原藍) 2021 「深い関係性（リレイショナル・デプス）」がなぜ人を癒すのか：パーソン・センタード・セラピーの力 創元社

#### E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

#### F.書評

〔該当文献なし〕

付：同リスト（～2020）

〔第I部：来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング〕の追録

#### A.書籍

〔該当文献なし〕

#### B.研究論文

1. 山根倫也・越川陽介 2020 Person-Centered Approachから見たNegative

Capability：非指示的なセラピストの中で起きていること 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, (10), 51-58.

#### C.学会発表

[該当文献なし]

#### D.翻訳

[該当文献なし]

#### E.海外文献紹介

[該当文献なし]

#### F.書評

[該当文献なし]

## 第Ⅱ部：体験過程療法・フォーカシング指向心理療法

「第Ⅱ部：フォーカシング指向心理療法・体験過程療法」には関連文献のうち、体験過程療法やフォーカシング、フォーカシング指向心理療法、「体験過程」「フェルトセンス」「シフト」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した。

2021年の概要は次のとおりである。「A.書籍」は2本であった。「B.研究論文」は34本であった。「C.学会発表」は10本で、そのうち3つがシンポジウムであった。「D.翻訳」は2本であった。「E.海外文献紹介」はなかった。「F.書評」は4本であった。

2021年における「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」の特徴は、コロナ禍という時世を反映した研究（B-9、C-4、C-6）や非言語表現を活用した研究（A-2、B-11、B-34）が複数見られることであろう。

なお、2021年は「人間性心理学研究」に2本（B-9、F-2）、関連文献が掲載された。また、2021年は「心理臨床学研究」に1本（B-1）、関連文献が掲載された。また、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」の文献は、日本フォーカシング協会ニューズレター「The Focuser's Focus」にコンスタントに発表されている。

#### A.書籍

1. 窪内敏子 2021 危機理論に基づく認知症者とのかかわりに関する研究：フェルト・センスに焦点をあてた共感的理解 みらい
2. 山田美穂 2021 心理臨床セラピストの身体と共感：ダンス/ムーブメントとフェルトセンスの活用 春風社

## B.研究論文

1. アニエス・ウインドラム 2021 国際交流コーナー：つながりと相互作用を通じて「十全に人間になる」ということ The Focuser's Focus, 24(3), 11.
2. 青木剛・解良優基 2021 フォーカシングの態度が生理的ストレス反応に及ぼす影響に関する探索的研究 南山大学紀要「アカデミア」人文・自然科学編, 22, 221-230.
3. 青木 剛・市川紗里奈・山崎綾介・坂中正義 2021 オンライン授業に対応したワークの開発：私をあらわすオブジェ作り 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 20, 167-180.
4. 阿世賀浩一郎 2021 自由投稿：拙書、「入門フォーカシング」無料贈呈いたします The Focuser's Focus, 24(3), 11.
5. 藤森かおる 2021 オンライン連詩をやってみました！ The Focuser's Focus, 23(4), 12.
6. 福田尚法・森川友子 2021 メンタルヘルス面で不安がある人に対する短期的就職支援方法に関する一提案 九州産業大学紀要「人間科学」, 3, 1-11.
7. はえばるとみ 2021 フォーカシング・ワークショップ 2020 in 沖縄に参加して The Focuser's Focus, 23(4), 11-12.
8. 平野智子・池見陽 2021 フォーカシングと〈からだ〉 心身医学, 61(6), 528-534.
9. 堀尾直美 2021 フォーカシングの立場から（特集 第39回大会シンポジウム「新型コロナウイルス状況下での人間性心理学の実践」） 人間性心理学研究, 38(2), 223-227.
10. 池見 陽 2021 フォーカシングと私～狭間での巡り逢い～ 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 20, 67-75.
11. 小坂淑子 2021 フォーカシング指向表現アーツ（FOAT）を心理療法に適用する試み 心理臨床学研究, 39(5), 407-418.
12. 小坂淑子 2021 自由投稿：「オンラインFOAT® 出店」 The Focuser's Focus, 24(2), 8.
13. 久羽康 2021 中国・上海のフォーカシングー国際交流グループ オンラインミーティングから The Focuser's Focus, 24(1), 5.
14. 久羽康 2021 Gendlin Symposiumに参加して The Focuser's Focus, 24(2), 8.
15. 宮野由紀 2021 JCFA子どもとフォーカシング：「短大生の授業に生かすフォーカシング」 The Focuser's Focus, 24(1), 5.
16. 森川友子 2021 研究者の数珠つなぎ：もったいないから研究しよう The Focuser's Focus, 23(4), 12.
17. 永野浩二 2021 研究者の数珠繋ぎ The Focuser's Focus, 24(3), 11.
18. 長嶋宏美 2021 JCFA子どもとフォーカシング The Focuser's Focus, 24(3),



- 11.
19. 仁田公子 2021 国際交流コーナー：デービッド・プレイジャーの「グローバル・サンガ」に参加して The Focuser's Focus, 23(4), 12.
  20. 沼田圭子・浅井継悟 2021 幸せへの動機づけを高めるフォーカシングプログラム—中年期を対象とした効果検証— 北海道教育大学釧路校研究紀要, 53, 1-7.
  21. 岡村心平 2021 山岳ガイドの身体性：「勘」の分析試論 関西大学東西学術研究所紀要, 54, 201-221.
  22. 大迫久美恵・笹田晃子・小池順子 2021 自由投稿：3.11とフォーカシング #10 The Focuser's Focus, 24(3), 11.
  23. P 2021 初めての沖縄 & フォーカシングWS The Focuser's Focus, 23(4), 10-11.
  24. ペロ 2021 自然に笑顔を向けている 自分に気づきました The Focuser's Focus, 23(4), 12.
  25. 笹田晃子 2021 子どもとフォーカシング：こんなときこそ“CAS（こころの整理）” “ミラーリング” に “こころの天気”… The Focuser's Focus, 23(4), 5-6.
  26. 笹田晃子・仁田公子・田中秀男・土江正司・川崎直樹・流一世 2021 自由投稿：「フォーカシング・プロジェクト初企画の出店をしました！」 The Focuser's Focus, 24(2), 8.
  27. 篠宮麻子 2021 自由投稿：“Advanced And Certification Weeklong 2021”での感想と“Focus-A-Thon 2021”の体験 The Focuser's Focus, 24(3), 11.
  28. 白岩紘子 2021 JCFA子どもとフォーカシング The Focuser's Focus, 24(2), 8.
  29. 田中秀男 2021 国際交流コーナー：ジェンドリンの名を冠した国際シンポジウム、オンラインで開催 The Focuser's Focus, 24(2), 8.
  30. 舎川優悟 2021 研究者の数珠繋ぎ：「へんなのでいいんじゃない？」 The Focuser's Focus, 24(1), 5.
  31. 筒井健雄 2021 世界平和のためにフォーカシングを広めよう The Focuser's Focus, 23(4), 7-9.
  32. 筒井優介 2021 体験報告：フォーカシング・ワークショップ2020 in 沖縄～不安を抱える時代の歩き方～ The Focuser's Focus, 23(4), 9-10.
  33. 八木橋栄二 2021 自由投稿：読書感想文『私』の紡ぐフォーカシングとコラージュ 矢野キエ著 The Focuser's Focus, 24(3), 11.
  34. 山田美穂 2021 心理臨床におけるセラピストの身体を通じた共感：ダンス/ムーブメントとフェルトセンスの活用 学習院大学博士論文

### C.学会発表

1. 土井晶子・森永康子・清末有紀 2021 成人における「フォーカシング的態度」

- と自己効力感、ソーシャル・スキル、Locus of Controlの関係について 日本人間性心理学会第40回大会プログラム・発表論文集, 58.
2. 飯嶋秀治・村里忠之 2021 自主シンポジウム：諸領域の交差はどのように可能か？—フェルトセンスが交差を可能にすることをめぐって— 日本人間性心理学会第40回大会プログラム・発表論文集, 31.
  3. 池見陽 2021 旅路に眺める心景色～道ゆく人々の間にて～ 日本人間性心理学会第40回大会プログラム・発表論文集, 19.
  4. 吉良安之 2021 大会主催ワークショップ：心理臨床にフォーカシングを活かす 日本人間性心理学会第40回大会プログラム・発表論文集, 23.
  5. 小坂淑子 2021 実行委員企画：体験型ミニワークショップ フォーカシング 日本心理臨床学会第40回大会プログラム, 15.
  6. 宮田周平 2021 自主シンポジウム：コロナ禍における心理学の実践—基礎心理学と人間性心理学の交差VI— 日本人間性心理学会第40回大会プログラム・発表論文集, 33.
  7. 森川友子・福田尚法・福盛英明・平井達也・永野浩二 2021 「就活支援のための共生的体験過程尊重尺度」作成の試み（第1報）—プロトタイプの開発— 日本人間性心理学会第40回大会プログラム・発表論文集, 47.
  8. 森川友子 2021 実行委員企画：体験型ミニワークショップ フォーカシング 日本心理臨床学会第40回大会プログラム, 15.
  9. 山下佳久 2021 TAEを用いて心理的援助者としての“よりどころとなるもの”を捉え直す過程の研究 日本人間性心理学会第40回大会プログラム・発表論文集, 55.
  10. 矢野キエ 2021 自主シンポジウム：どうやったらできるのか、に答えるためにできることを考察する 日本人間性心理学会第40回大会プログラム・発表論文集, 30.

#### D.翻訳

1. Gendlin, E.T. (末武康弘・木村喜美代・小林智・宮田はる子・小田友理恵・大迫久美恵・酒井茂樹・瀬戸恵理・高沢佳司・吉森丹衣子訳) 2021 パターンを超えて思考すること：身体、言語、状況：Gendlin, 1991 (その3) 法政大学「現代福祉研究」, 21, 121-129.
2. Omidian, P. (土井晶子・高橋紀子訳) 2021 レジリエンスを育むフォーカシング：コミュニティ・エンパワーメントの技法 金子書房

#### E.海外文献紹介

[該当文献なし]

## F.書評

1. 上村英生 2021 書評：『カール・ロジャーズ』 The Focuser's Focus, 24(3), 11.
2. 三浦文子 2021 「増井武士・池見陽著 2020『治療的面接の工夫と手順—人間学的力動論の観点から—』創元社」 人間性心理学研究, 39(1), 71-74.
3. 岡村心平 2021 書評：「レジリエンスを育むフォーカシング」 The Focuser's Focus, 24(2), 8.
4. 末武康弘 2021 書評：「セミナー インタラクティブ・フォーカシング—ジェネット・クラインとメアリー・マクガイヤーに学ぶ」近田照行監修、前田満寿美著 The Focuser's Focus, 24(1), 5.

付：同リスト（～2020）

「第Ⅱ部：体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」の追録

## A.書籍

1. 阿世賀浩一郎 2019 入門フォーカシング 鳥影社
2. 石井栄子・小山孝子 2014 フォーカシング指向親向け講座：親子のためのホット講座 コスモス・ライブラリー

## B.研究論文

1. 天野裕子 2007 フォーカシングにおける「大切な他者のフェルトセンスに見立てる技法」の開発：嫌悪感を伴うフェルトセンスに対する新しい技法の作成と検討 東亜大学博士論文
2. 有村靖子 2018 ゲシュタルト療法の提案にフォーカシング的態度を加えることの意義 ゲシュタルト療法研究, (8), 19-28.
3. 藤枝豊 2020 第二言語ライティング研究分野における情動研究を検証する—フォーカシングとTAEアプローチを用いて— 共愛学園前橋国際大学論集, 20, 1-13.
4. 福盛英明 2017 大学生の学生生活の質に影響する日常の体験様式に関する研究：「体験過程を尊重する態度」に着目して 九州大学博士論文
5. 東山隆子 2018 日常的フォーカシング態度の適応的機能に関する心理学的研究：精神的健康の観点から 筑波大学博士論文
6. 平松清志 1999 箱庭療法の面接過程に関する臨床的基礎研究 兵庫教育大学博士論文
7. 平野智子 2020 対人援助職のためのフォーカシングに関する研究 関西大学博士論文
8. 星加博之 2013 イメージ想起から推進にいたる5ステップの体験過程に関する研究 武庫川女子大学博士論文

9. 池見陽 2020 体験過程・追体験と体験過程様式—心身医学を専門とする医師のために— 心身医学, 60(8), 688-694.
10. 石倉篤・中田行重 2017 セラピストによる情動調律とフォーカシング—言葉の内容のみでは分かり合い難い自閉症児との遊戯療法の文脈で— 関西大学心理臨床センター紀要, 8, 67-77.
11. 伊藤義美 2019 バックグラウンド・フィーリングについてのフォーカシングにおけるフェルトセンスとのコンタクトに関する一検討 人間環境大学「人間と環境」, 11, 7-19.
12. 伊藤義美 2020 心の病と心理的支援法：カウンセリングからフォーカシングへ 人間環境大学「人間と環境」, 12, 45-56.
13. 上條 晴夫 2018 教材開発—連詩の持つ学びの意味・学びのしかけ— 東北福祉大学「教職研究」, 2017, 123-134.
14. 上岡真理・玉瀬友美 2020 絵本のテーマの読み取りと授業のとらえ方に及ぼすフォーカシングの影響 高知大学教育学部研究報告, 80, 11-17.
15. 河崎俊博・永野浩二・森川友子・福盛英明・平井達也 2018 継続的なフォーカシング学習によるフォーカシング的態度の涵養 追手門学院大学心の相談室紀要, 15, 2-16.
16. 河崎俊博・越川陽介・田中秀男・筒井 優介 2020 コロナ禍における不安に対するフォーカシングの活用と意義 追手門学院大学心の相談室紀要, 17, 12-22.
17. 河崎俊博・越川陽介・田中秀男・筒井 優介 2020 人生100年時代に活かすフォーカシング—沖縄ワークショップでの取り組み— 関西大学心理臨床センター紀要, 11, 45-54.
18. 木村喜美代 2014 集中内観における内観体験の質的分析—ある内観者のフェルトセンスの観点から— 内観研究, 20(1), 27-38.
19. 古井戸祐樹 2019 幼児教育における体験過程の教育学的意義：フォーカシング指向心理療法の観点から着目して 早稲田大学教育学会紀要, 21, 97-103.
20. 古井戸祐樹 2020 道徳教育における「主体的・対話的で深い学び」とジェンドリン哲学の可能性：「体験過程 (experiencing)」と「感じられた意味 (felt meaning)」に着目して 早稲田大学教育学会紀要, 22, 46-52.
21. 古井戸祐樹 2020 ジェンドリンの暗在性の哲学における「感じられた意味」の機能的意義：デューイの「経験」の感情的側面を手掛かりに 早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊, 28(2), 183-193.
22. 小松貴弘 2020 心理療法作用としての経験の構成モデル：その射程と可能性 関西大学博士論文
23. 小松貴弘 2020 セラピー作用の捉え方の一つとしての経験の構成 人間性心理学研究, 37(2), 145-156.
24. 小坂淑子 2017 フォーカシング指向アートワークのプロセス及び効果研究

- KOL-BEの可能性と特徴— 平成28年度 大正大学大学院学術研究助成 成果報告書, 11-15.
25. 小坂淑子 2020 体験過程の象徴化における象徴様式の影響に関する研究 大正大学博士論文
  26. 久羽康 2018 「そこにある何か」を感じ取るという観点から見たフォーカシング指向アプローチ 神奈川大学「心理相談研究」, 9, 33-47.
  27. 久羽康 2020 クライエントの自己否定への対応について 駒澤大学心理臨床研究(19), 3-9.
  28. 久羽康 2020 理論・研究法論文 心理療法における概念の用い方についての一考察：Gendlinの理論の観点から 臨床心理学, 20(1), 103-111.
  29. 窪内敏子 2020 危機理論に基づく認知症者とのかかわりに関する研究：フェルト・センスに焦点をあてた共感的理解 関西福祉科学大学博士論文
  30. 栗野理恵子・清水遵 2018 「からだの感じフォーカシング」の3回実施における心理・生理的効果 愛知淑徳大学論集. 心理学部篇, 8, 27-38.
  31. 栗野理恵子・清水遵 2019 悲しみ想起後のフォーカシング技法を用いた音楽聴取がもたらす心理・生理的反応③：フォーカシング指向音楽聴取教示の影響 感情心理学研究, 25 Supplement, ps09
  32. 栗野理恵子 2019 フォーカシング指向音楽聴取がもたらす心理・生理的反応に関する研究 愛知淑徳大学博士論文
  33. 栗野理恵子 2020 フォーカシング技法を用いた音楽聴取の教示提供タイミングが心理・生理的反応にもたらす影響 名古屋産業大学論集, 35, 9-17.
  34. 三村尚彦 2016 フェルトセンスは、身体的なフィーリングなのか 関西大学文学論集, 65(3・4), 1-23.
  35. 三沢元彦 2019 質的研究法TAEを用いた面接が新任教師の生徒指導上の気づきと行動を促す事例 学校メンタルヘルス, 22(2), 220-230.
  36. 三宅麻希 2008 体験過程と心理療法についての一考察：体験過程スケールによる面接過程の評定と体験過程促進的な応答について 関西大学博士論文
  37. 森川友子 2005 フォーカシング的体験様式の日常化に関する研究とその方法の開発 東亜大学博士論文
  38. 村里忠之 2011 E.T.ジェンドリンによる心理療法とフォーカシング&TAEの基礎としての暗在性(the Implicit)哲学についての研究 法政大学博士論文
  39. 永野浩二・河崎俊博・平井達也・福盛英明・森川友子・内田陽之・水本正志・山根英之・岩佐浩・倉谷昂志 2018 日常におけるフォーカシング的態度と働く人の心理社会的要因との関連 追手門学院大学心の相談室紀要, 15, 27-37.
  40. 中村博之 2015 心理教育相談の母親面接における相互交流に関する研究 武庫川女子大学博士論文
  41. 中谷隆・東山隆子 2019 日常生活におけるフォーカシングとマインドフルネ

- スの体験過程：その類似点と相違点 人間と科学：県立広島大学保健福祉学部誌, 19(1), 1-21.
42. 仁田公子 2020 心理療法におけるサイコセラピストの内観の意義～TAEによる内観体験の意味解明の試み～ 内観研究, 26(1), 87-93
  43. 岡田敦史 2019 重度障害児を持つ母親のカウンセリング過程—クライアントによる評価インタビューとフォーカシング指向カウンセリングの視点からの事例研究— 日本ヒューマンケア学会誌, 12(2), 27-34.
  44. 岡田敦史 2020 感情と感覚・身体部位のイメージ関連性:アレキシサイミア・身体感覚増幅とフォーカシング的態度に着目して 東北大学博士論文
  45. 岡村心平 2018 フォーカシングにおける交差の機能に関する研究：心理療法・メタファー・なぞかけ 関西大学博士論文
  46. 押岡大覚・鎌倉利光 2018 テキストマイニング及び多変量解析を用いたフォーカシング指向グループの体験分析—グループ・プロセスに関する仮説生成の試み—【第三報】 聖泉論叢, 25, 19-30.
  47. 酒井久実代 2013 感情プロセス認識に関する研究：体験過程理論の実証的検討 立教大学博士論文
  48. 酒井久実代 2019 公園で実施されたフォーカシング指向ピアカウンセリングの効果に関する検討 日本女子体育大学紀要, 49, 65-73.
  49. 鹿内信善 2005 創造的に読むための支援方法についての研究:オリエンテーション設定法・フォーカシング法・物語法・看図作文 早稲田大学博士論文
  50. 末武康弘 2014 ジェンドリンのプロセスモデルとその臨床的意義に関する研究 法政大学博士論文
  51. 末武康弘 2017 フォーカシングとTAEをその他の方法とともに多元的に活用するセラピーのためのガイドの作成：多元的フォーカシングセラピー(pluralistic focusing therapy: PFT)のガイド 現代福祉研究, 17, 7-29.
  52. 高橋寛子 2017 フォーカシングによる傾聴と『身体知』の活用(特集 リハビリテーションに役立つ心理療法) Monthly book medical rehabilitation, 208, 23-29.
  53. 高橋寛子 2017 心理臨床教育における体験の言語化とその意義—TAEの'Dipping&Crossing'による俯瞰化・普遍化・構造化— 山梨英和大学紀要, 16, 1-14.
  54. 高沢佳司 2016 構造拘束的な体験様式と心理的距離に関する研究 法政大学博士論文
  55. 得丸智子・清水順子 2018 TAEによる内省プロセスを可視化する—ある日本語教師の教育実践の振り返り— 開智国際大学紀要, 17, 55-84.
  56. 得丸智子 2019 日本語独習者の研究～アニメ視聴から始まった日本語学習～ 開智国際大学紀要, 18, 37-56.
  57. 得丸智子 2020 3パートTAE(Thinking at the Edge)とウェブサイト「TAE

- リフレクション」 開智国際大学紀要, 19, 167-175.
58. 得丸智子 2020 アプリを活用した単語学習を中心とする日本語独習～TAEによるインタビュー分析～ 開智国際大学紀要, 19, 35-63.
  59. 土元哲平・小田友理恵・サトウ タツヤ 2019 成長の瞬間を生み出す「よいキャリア支援」の意味感覚：TAEステップを用いた理論構築 質的心理学研究, 19(1), 46-67.
  60. 筒井優介 2020 夢PCAGIPの開発に関する研究：グループでの夢理解のために 関西大学博士論文
  61. 上西裕之 2020 日常生活におけるフォーカシングの経験尺度テキスト改訂版の検討 関西大学心理臨床センター紀要, 11, 11-21.
  62. 山田美穂 2019 教育・心理専門職養成教育における身体的共感のトレーニング：ダンス・ムーブメント・セラピーとフォーカシングの技法を用いて ダンスセラピー研究, 12(1), 19-28.
  63. 山田美穂 2020 ダンス/ムーブメントを用いた心理臨床実践におけるフォーカシングの活用 就実大学大学院教育学研究科紀要, 5, 43-58.
  64. 矢野キエ 2016 前概念的な体験過程を言い表すこと—こどもフォーカシングにおける象徴化について— 大阪キリスト教短期大学紀要, 56, 1-17

#### C.学会発表

1. 栗野理恵子 2020 音楽聴取前にフォーカシング経験のない学生の音声で提供されたフォーカシング教示が心理的反応に及ぼす影響—聴取者の特性不安の程度による検討— 日本心理学会大会第84回発表論文集, 83.
2. 増田優子・三宮真智子 2017 メンタライゼーション能力の高さが日常的フォーカシング態度および自己調整学習に及ぼす影響 日本教育心理学会第59回総会発表論文集, 748-748.
3. 佐々木裕子 2020 臨床訓練導入教育として実践されたグループ体験プログラムの検討—体験過程尊重尺度による効果比較— 日本心理臨床学会第39回大会発表論文集, 384.

#### D.翻訳

1. Gendlin, E.T. (末武康弘・木村喜美代・酒井茂樹・小田友理恵・大迫久美恵・宮尾一憲・宮田はる子・瀬戸恵理・吉森丹衣子訳) 2019 パターンを超えて思考すること：身体、言語、状況：Gendlin, 1991 (その1) 法政大学「現代福祉研究」, 19, 81-100.
2. Gendlin, E.T. (末武康弘・吉森丹衣子・宮田はる子・木村喜美代・小田友理恵・大迫久美恵・酒井茂樹訳) 2020 パターンを超えて思考すること：身体、言語、状況：Gendlin, 1991 (その2) 法政大学「現代福祉研究」, 20, 99-108.
3. Gendlin, E.T. (岡村心平訳) 2017 アラカワ+ギンズ：有機体-人間-環境プロ

### E. 海外文献紹介

〔該当文献なし〕

### F. 書評

〔該当文献なし〕

## 第Ⅲ部：ベーシック・エンカウンター・グループ

「第Ⅲ部：ベーシック・エンカウンター・グループ」には関連文献のうち、ベーシック・エンカウンター・グループ、パーソンセンタード・アプローチなどのパーソンセンタードなオリエンテーションにもとづくグループ・アプローチ、「ファシリテーター」「グループ・プロセス」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した<sup>2</sup>。

2021年の概要は次のとおりである。「A.書籍」はなかった。「B.研究論文」は2本であった。「C.学会発表」は3本であった。「D.翻訳」はなかった。「E.海外文献紹介」はなかった。「F.書評」はなかった。

### A. 書籍

〔該当文献なし〕

### B. 研究論文

1. 松井幸太 2021 自然体験活動を通じたエンカウンター・グループにおける成長と課題: 参加者の体験過程と中途帰宅者の体験過程に着目して 関西国際大学「研究紀要」,(22), 165-179.
2. 坂中正義 2021 仲間と丁寧に語る/聴く セルフヘルプ・グループ 心理臨床の広場, 13(2), 31.

### C. 学会発表

1. 三國牧子・石田妙美 2021 大会主催ワークショップ：ベーシック・エンカウンター・グループ 日本人間性心理学会第40回大会プログラム・発表論文集, 27.
2. 新村信貴 2021 類似する実践との比較におけるファミリー・グループの共通性・独自性に関する一考察 日本人間性心理学会第40回大会プログラム・

---

<sup>2</sup> なお、体験過程療法に特化したグループ・アプローチは、第Ⅱ部へ収録されている。



発表論文集, 41.

3. 内田尚宏・小池有紀・首藤和佳子 2021 エンカウンター・グループの感じ体験に関する一考察—チームで行うことの意義について— 日本心理臨床学会第40回大会プログラム, 40.

#### D.翻訳

〔該当文献なし〕

#### E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

#### F.書評

〔該当文献なし〕

### 第Ⅳ部：その他

「第Ⅳ部：その他」には関連文献のうち、親子関係・家庭生活、教育・学習（学生中心の教授法や人間中心の教育など）等の来談者中心のオリエンテーションの広がりやその基礎概念、歴史、人物等、また、表現療法などのこれまでの3部には分類されないものを収録した。

2021年の概要は次のとおりである。「A.書籍」はなかった。「B.研究論文」は7本であった。「C.学会発表」は3本であった。「D.翻訳」はなかった。「E.海外文献紹介」はなかった。「F.書評」はなかった。

2021年における「その他」の特徴は、PCAGIPに関する研究の数が増えたことであろう。

#### A.書籍

〔該当文献なし〕

#### B.研究論文

1. 藤中隆久 2021 学校の事例検討会に PCAGIP 法を適用する事の考察 熊本大学教育実践研究, 39, 127-134.
2. 内藤裕子 2021 PCAGIPのエンパワーメント効果：被災地の養護教諭を対象として 教職研究, (2020), 45-55.
3. 中野渡美幸 2021 小学校教員の同僚性が教員としての在りように与える影響—質的研究を通して— 創価大学大学院紀要, (42), 271-285.
4. 中山美枝子・村山正治 2021 PCAGIP事例提供者を体験して 東亜臨床心理学研究, (20), 43-46.

5. 野村陽子・村山正治 2021 協立総合病院におけるPCAGIP 4年間の継続支援の考察 東亜臨床心理学研究, (20), 25-34.
6. 岡本和磨・池田陽子・甲斐朱莉・末元真子・水谷晴香・米田紗菜・池見陽 2021 Zoomを用いたPCAGIP:その実施と有効性の検討 サイコロジスト:関西大学臨床心理専門職大学院紀要, (11), 11-19.
7. 押江隆・山根倫也・池ヶ谷采佳・坂本和久・玖村奈美・白石潤一 2021 体験過程スケールによる リフレキシブ PCAGIP のプロセス研究 山口大学教育学部研究論叢, 70, 35-44.

### C.学会発表

1. 内藤裕子 2021 オンラインによるPCAGIPの試み—対面との比較検討—日本人間性心理学会第40回大会プログラム・発表論文集, 66.
2. 押江隆・石川智香子・岩野光 2021 遠きにありて思うもの:オンラインPCAGIPの実践と検討 日本人間性心理学会第40回大会プログラム・発表論文集, 40.
3. 白井祐浩・大石英史・金子信一 2021 従来の臨床家訓練と新しい臨床家訓練はどう違うのか? 事例検討、PCAGIP法、Therapist Centered Trainingの比較 日本人間性心理学会第40回大会プログラム・発表論文集, 43.

### D.翻訳

〔該当文献なし〕

### E.海外文献紹介

〔該当文献なし〕

### F.書評

〔該当文献なし〕

付：同リスト（～2020）「第Ⅳ部：その他」の追録

### A.書籍

〔該当文献なし〕

### B.研究論文

1. 小野真由子 2020 事例提供者の発言に着目したPCAGIP法における体験の特徴 関西大学心理臨床センター紀要(11), 67-76.

### C.学会発表

[該当文献なし]

### D.翻訳

[該当文献なし]

### E.海外文献紹介

[該当文献なし]

### F.書評

[該当文献なし]

## 統計

2021年に発行された文献、及び追録された文献を先述の坂中（2004）に従い分類した。その結果を以前のデータと共にTableに示した。2021年に公刊された関連文献は65篇（「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」13篇、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」43篇、「ベーシック・エンカウンター・グループ」2篇、「その他」7篇）であった<sup>3</sup>。

よって、これまでに日本で公刊された関連文献は8454篇（「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」3613篇、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」2547篇、「ベーシック・エンカウンター・グループ」1901篇、「その他」393篇）となった。

なお、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」の「追録」で研究論文の数が増えたが、これは、従来ほとんど収録されたなかったフォーカシングに関する博士論文を数多く遡及入力したことによるところが大きいところを付言しておく。

## お願い

リストに収録した文献の記述上の誤りを見つけられた方、また、該当する文献を執筆された方、もれている文献を御存知の方は、筆者らまで御連絡願えれば幸いである。

連絡先 〒466-8673 愛知県名古屋市昭和区山里町18  
南山大学 人文学部 青木剛  
E-mail: pca.biblio@gmail.com

---

<sup>3</sup> 学会発表は合計に含まれていない。

Table 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する発行文献数 (2021.12.31現在)

	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	90-94	95-99	00-04	05-09	10-14	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	合計	
来歴者中心療法	2	7	13	35	14	15	13	9	20	15	8	14	4	6	1	3	1	2	0	0	182	
パーソンセンタード・カウンセリング	3	5	9	27	47	43	48	20	111	118	53	35	44	1	0	0	2	2	2	0	570	
(含: 基礎概念)	0	0	0	1	2	9	19	15	3	11	13	15	8	8	1	2	2	2	2	0	6	117
道徳療法も含む	0	5	91	68	67	114	149	229	186	317	348	281	252	46	17	37	22	16	7	6	2258	
書籍: 単行本	1	3	3	8	5	1	3	4	1	0	10	12	4	0	0	0	0	0	0	0	1	56
書籍: 章	0	0	41	106	3	6	8	7	6	13	59	1	6	1	0	0	0	0	0	0	0	257
論文: 一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	8	2	7	3	1	0	3	1	0	28	
翻訳: 単行本	0	0	0	1	2	0	2	9	4	6	15	13	57	22	3	0	5	2	3	1	0	145
海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	9	11	2	3	3	2	1	3	2	1	5	53
書評	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	9	11	2	3	3	2	1	3	2	1	5	53
参考: 発表: シンポ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	9	11	2	3	3	2	1	3	2	1	5	53
参考: 発表: 一般	0	5	28	19	9	16	2	4	18	21	38	27	45	5	3	13	2	10	6	4	275	
合計 (学会発表は除く)	6	20	158	247	138	190	249	288	334	489	506	423	342	72	22	48	29	28	11	13	3643	
体験過程療法	0	0	0	1	0	0	2	0	3	8	6	8	6	3	0	0	0	2	0	0	2	44
フォーカシング指向心理療法	0	0	0	0	2	5	4	5	17	37	18	7	29	0	0	0	0	2	0	0	126	
(含: 体験過程の基礎概念)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	5	21	2	0	3	2	0	0	2	39	
書籍: 単行本	0	0	0	0	0	1	24	66	99	130	192	401	376	368	71	74	88	85	62	55	32	2124
書籍: 章	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	5	5	8	3	0	2	0	0	0	0	1	27
論文: 一般	0	0	2	5	2	7	8	3	1	5	5	12	2	4	6	2	3	2	2	2	76	
翻訳: 単行本	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	1	2	0	0	1	1	2	0	12	
海外文献紹介	0	0	0	0	1	0	1	0	5	6	16	21	13	17	5	8	2	0	0	0	4	99
書評	0	0	0	0	1	0	1	0	5	6	16	21	13	17	5	8	2	0	0	0	4	99
参考: 発表: シンポ	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	7	6	17	2	5	4	3	3	0	3	56	
参考: 発表: 一般	0	0	0	0	0	5	11	28	41	45	60	139	117	4	14	33	5	10	14	7	574	
合計 (学会発表は除く)	0	0	2	7	6	37	81	116	159	267	461	439	439	81	91	100	98	84	57	43	2547	
ベーンツァ・エンカウンター・グループ	0	1	0	1	0	1	2	1	4	3	2	4	6	2	0	0	0	1	0	1	0	29
(含: グループカウンセリング)	0	0	1	1	4	19	16	15	30	29	14	4	10	1	0	0	1	1	0	0	146	
書籍: 章	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	1	4	2	0	1	0	0	0	0	1	0	21
論文: 一般	0	0	3	0	37	121	247	206	283	155	216	145	113	36	8	19	13	14	13	2	1631	
翻訳: 単行本	0	0	0	0	0	3	4	2	0	0	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	14	
翻訳: 章	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	2	4	4	0	0	0	0	0	0	0	14	
論文: 一般	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
海外文献紹介	0	0	0	0	0	2	0	1	2	13	3	6	7	5	4	1	0	0	0	0	44	
書評	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	7	3	6	6	1	2	2	1	2	0	1	29
参考: 発表: シンポ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	7	3	6	6	1	2	2	1	2	0	1	29
参考: 発表: 一般	0	0	1	4	2	46	149	270	226	339	195	247	169	134	44	9	19	15	15	8	2	438
合計 (学会発表は除く)	0	1	4	2	4	2	46	149	270	226	339	195	247	169	134	44	9	19	15	15	2	1901
その他	0	0	0	4	2	2	2	0	3	1	5	7	7	2	1	0	0	0	0	1	0	35
(執筆・経営など)	0	0	0	2	0	0	2	0	5	6	3	1	11	1	0	0	0	0	0	0	0	31
書籍: 章	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	5
論文: 一般	0	0	4	1	6	13	19	10	25	13	45	39	52	9	2	7	10	7	3	7	272	
翻訳: 単行本	0	0	0	1	1	0	3	1	0	0	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	12	
翻訳: 章	0	0	0	4	1	0	1	0	1	0	9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	17	
論文: 一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	
海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	5	2	4	3	1	2	0	0	0	0	19	
書評	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	6	0	2	1	2	1	3	0	18
参考: 発表: シンポ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	7	16	1	26	6	8	10	6	3	1	3	95
参考: 発表: 一般	0	0	4	13	10	15	26	12	34	20	70	50	78	16	5	9	10	9	5	7	383	
合計 (学会発表は除く)	6	21	168	269	200	391	626	642	866	971	1284	1081	993	213	127	176	152	136	88	65	8454	
総計																						

(注) データは坂中による一連の「日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト」シリーズに基づいた。